

策定年月	令和6年8月
見直し年月	令和 年 月

麦国産化プラン

産地名：嘉麻市

(作成主体：福澤農園株式会社)

1. 麦生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

○現状と課題

〈麦〉

- ・令和5年産は、「はるか二条」、「チクゴイズミ」、を作付し、生産量は88t。
- ・毎年、弾丸暗渠や額縁明渠等の排水対策や適期管理を徹底する事で、生育量を十分確保でき収量は安定している。
- ・一部で雑草多発圃場があり、除草剤の選定や防除タイミングについて次年度対策を検討している。
- ・また、品質の安定を特に意識しているが、タンパク質含有率については基準より低く推移しているため、生育に応じた管理が課題となっている。

○課題解決に向けた取組方針

〈麦〉

- ・冬季の雨が多い年が続いているため、スタブルカルチを用いて深耕を行い排水対策の徹底と、バーチカルハローにて表面をしめることにより排水性の向上や播種精度とスピードを向上して適期の播種を実施する。
- ・雑草対策については、関係機関にアドバイスをもらいながら対応する。
- ・品質向上のため、定期的な土壌診断の実施や土壌改良剤投入を実施する。
- ・水稻・麦の二毛作であるため、播種圃場は排水条件や作業効率等を考慮して選定する。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

〈麦〉

全量 J A ふくおか 嘉穂へ出荷しており、全農ふくれんを通じて実需者へ販売している。栽培に関しては、J A ふくおか 嘉穂麦作部会に加入しており、赤カビ病防除の徹底やタンパク含有率向上などに関して、定期的に講習会が開催されており、栽培暦に基づいた作付を行なっている。生育、収量が悪かった圃場については土壌診断を実施し、関係機関のアドバイスのもと土壌改良剤を投入している。

国産麦取扱量

○二条大麦

品種名	産地取扱量		実需者取扱量		実需者
	令和5年度 (現状)	令和9年度 (目標)	令和5年度 (現状)	令和9年度 (目標)	
はるか二条	36.87 t	100 t	36.87 t	100 t	非公表

○小麦

品種名	産地取扱量		実需者取扱量		実需者
	令和5年度 (現状)	令和9年度 (目標)	令和5年度 (現状)	令和9年度 (目標)	
チクゴイズミ	51.07 t	9 t	51.07 t	9 t	非公表

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

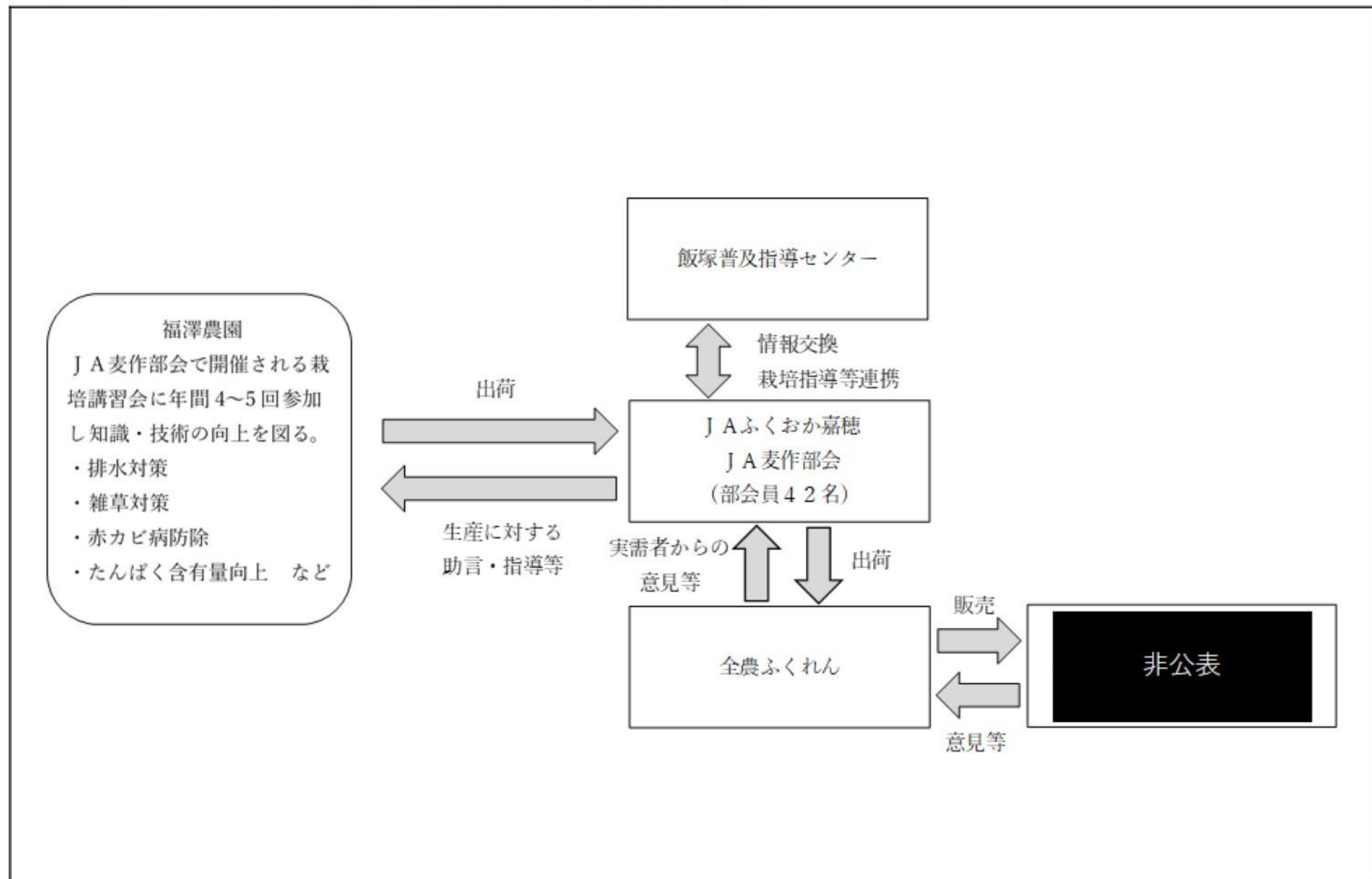
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。